

# キャンプを体験した女子高校生のアサーションの変容 ～自己有用感との関連に着目して～

奥野 理沙（生涯スポーツ学科 野外スポーツコース）  
指導教員 林 綾子

キーワード: キャンプ, 女子高校生, アサーション, 自己有用感

## 1. 序論

近年, 社会的スキルの不足が指摘され, 自分に自信が持てず考えや気持ちを言葉で伝える能力が低下しているといわれている. 自己主張や自己表現に関連したスキルで, その場にあった適切な自己表現を行うスキルとして, 「アサーション」の注目が高まっている. アサーションを高めるためには, 自分の感情, 存在を理解する必要がある(鶴田ら, 2007). このことから, 「自己有用感」とアサーションは深く関わっていると考えられる.

キャンプ活動は, 青少年の自主性や主張性, 社会性の育成に大いに役立つと報告されており(日本野外教育研究会, 1989), アサーションの向上にも効果があると考えた.

そこで, 本研究の目的は, キャンプを体験した女子高校生のアサーションの変容を自己有用感との関連に着目し, 明らかにすることである.

## 2. 研究方法

[対象者] B 大学で実施された 2017 年 4 月 20 日～22 日の 2 泊 3 日の 0 女子高等学校スポーツコース宿泊研修(キャンプ)に参加した 1 年生 26 名を対象とした. 比較の為, キャンプではない宿泊研修を行ったキャリア進学コース 1 年生 32 名を比較対象とした.

[調査方法] 栃木県教育センター(2013)が作成した「自己有用感尺度」3 因子 11 項目と鶴田ら(2007)が作成した「アサーション尺度」4 因子 13 項目を使用し, 2 項目の自由記述を加えて作成したアンケートを事前, 事後, 1 ヶ月後の 3 回調査を実施した.

## 3. 結果および考察

### 1) アサーション得点の変容

時期と群を要因とする 2 要因の分散分析を行った結果, 有意な差がみられた(表 1)ため, 多重比較を行った. 結果, スポーツコースで, アサーション全体と「異なる意見の表明」因子「限界表明及び依頼」因子で有意な向上がみられた. キャリアコースには, アサーション全体と因子別ともに有意な変化はみられなかった.

表 1) コース別アサーション得点の平均・標準偏差, 分散分析結果

		M(CD)			
		事前	事後	1ヶ月後	F値
アサーション	スポーツ(N=26)	45.27(7.41)	49.08(6.99)	47.77(6.90)	7.77**
	キャリア(N=32)	45.81(6.74)	46.75(8.57)	45.72(6.97)	
異なる意見の表明因子	スポーツ	10.00(2.67)	11.38(2.93)	11.62(2.50)	4.52*
	キャリア	10.66(2.46)	10.94(2.61)	10.56(2.37)	
限界表明及び依頼因子	スポーツ	7.35(1.36)	8.23(1.45)	7.96(2.01)	6.30*
	キャリア	7.87(1.48)	8.12(1.76)	8.03(1.62)	
肯定アサーション因子	スポーツ	20.19(3.43)	21.31(2.80)	20.54(3.61)	0.75n.s.
	キャリア	20.00(3.01)	20.03(3.59)	19.91(3.12)	
話術因子	スポーツ	7.73(1.40)	8.15(1.43)	7.65(1.29)	0.18n.s.
	キャリア	7.28(1.46)	7.66(1.70)	7.22(1.36)	

非日常的な環境で仲間と共に困難を乗り越え, 感情を共有するなど, お互いが一つになるような体験が多いキャンプ体験は, 多様なコミュニケーションが活発になり, アサーションの向上に繋がったと考えられる.

## 2) 自己有用感の変容

時期と群を要因とする 2 要因の分散分析を行った結果, 有意な差がみられた(表 2)ため, 多重比較を行った. 結果, 両コースともに全体, 因子別, 全てに有意な向上がみられた. コース間では, 事後のみ, スポーツコースがキャリアコースより 0.1%水準で有意に高かった.

表 2) コース別アサーション得点の平均・標準偏差, 分散分析結果

		M(CD)			
		事前	事後	1ヶ月後	F値
自己有用感	スポーツ(N=26)	20.92(3.24)	25.58(4.66)	23.81(4.61)	4.54*
	キャリア(N=32)	19.00(5.42)	21.06(3.73)	22.19(4.52)	
存在感因子	スポーツ	8.65(1.52)	9.88(2.27)	9.35(1.90)	4.78*
	キャリア	7.44(2.92)	8.31(1.75)	8.59(2.17)	
承認因子	スポーツ	6.38(1.70)	8.08(1.38)	7.62(1.81)	10.59***
	キャリア	6.44(1.74)	7.44(1.63)	7.47(1.39)	
貢献因子	スポーツ	5.88(1.18)	7.62(1.53)	6.85(1.43)	10.10***
	キャリア	5.13(1.50)	5.31(1.23)	6.13(1.50)	

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

キャンプ体験や宿泊研修を通して, 友人関係が広がり, 自ら動き, 発言する場面が増えたことから, 他者との間に新しい自分を見つけ, 効果が得られ継続されたと考えられる.

## 3) 自己有用感がアサーションに与える影響

単回帰分析によるアサーションに影響を与える要因の分析を行った. 分析結果から, 自己有用感( $B=1.051^{***}$ )がアサーションに約 40%の正の影響を与えていることが明らかになった. 因子別でも, 4 つの因子全てに約 30-40%近くの正の影響を与えていることが明らかになった. コース別では, キャリア進学コースのみ, 「話術」因子, 「限界表明及び依頼」因子, 「異なる意見の表明」因子に自己有用感が負の影響を与えていた. キャリア進学コースの自己有用感は事後においてスポーツコースより有意に低かったことから, 低い自己有用感は, アサーションに負の影響を与えることが明らかになった.

これらの結果から, アサーションには, 自己有用感が強く影響していることが明らかになった. 入学直後の時期では, キャンプや宿泊研修などで, 自己有用感を実感できるようなプログラムをより積極的に導入させ, その後に, アサーションなどの社会的スキルの向上に取り組むことが有効であると考えられる.

## 4. まとめ

キャンプを体験することで, アサーションが向上することが明らかになった. また, アサーションには, 自己有用感が大きな影響を与えていることが明らかになった. キャンプ体験がアサーション向上に効果的であることから, 現代社会の青年期の問題である不十分な社会的スキル向上の 1 つの方策として期待される.

## 引用文献

- (1) 日本野外教育研究会(1989), キャンプテキスト. 杏林書院発行: 東京.
- (2) 栃木県教育センター(2013), 高めよう! 自己有用感～栃木の子どもの現状と指導の在り方～. 栃木教育センター紀要, 11: 1-73.
- (3) 鶴田美里映・有倉巳幸(2007), 高校生における批判的思考態度と自己表現の関連性の検討, 鹿児島大学教育学部教育実施研究紀要, 17: 235-245.